

食料・農業・農村基本法の 検証・見直しについて

有限会社 安井ファーム

会社概要

会社名	有限会社 安井ファーム
代表者	安井 善成 （ヤスイ ヨシナリ）
住所	石川県白山市七郎町 1 5 番地
設立	平成 1 3 年 5 月 1 日
資本金	6, 000, 000円
従業員数	常勤 9 名、パート 1 4 名、外国人技能実習生 1 2 名（ベトナム人女性： 3 名、カンボジア人男性： 9 名）
事業内容	農産物の生産および販売 （ブロッコリー、水稲、大豆、その他野菜）



経営概要（令和4年）

経営耕地面積 計 1 5 1 ha

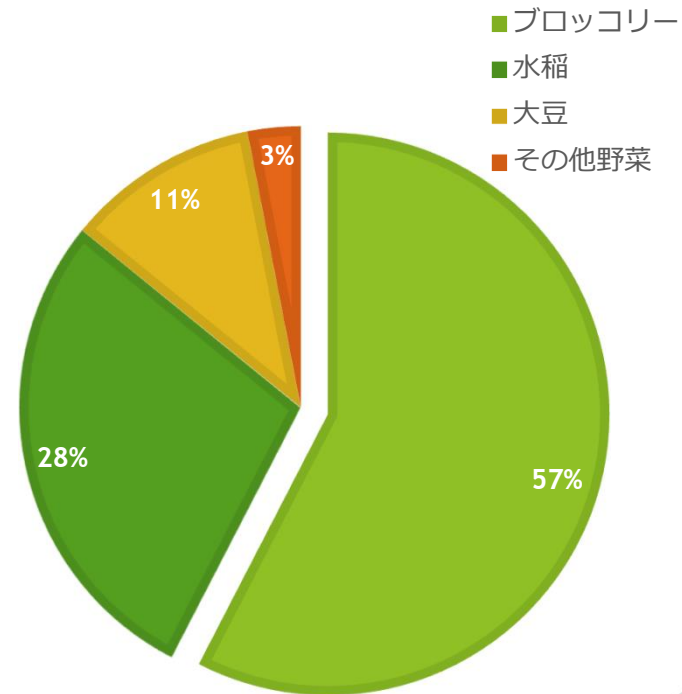
うち

ブロッコリー 8 7 ha

水稲 4 2 ha

大豆 1 7 ha

その他野菜 5 ha



※ブロッコリーは栽培面積ベースで石川県産の約3割をシェア

令和4年産 耕作地別の作付状況



GAPの実践

2008年 グローバルGAP認証取得



効果

- 農産物の信頼向上
 - 生産力の向上
 - リスク管理能力の向上
 - 社員の意識向上
 - 環境負荷低減
 - 労働者の安全の確保
- など

SDGs宣言



有限会社安井ファーム

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、事業活動を通して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2022年1月1日
有限会社安井ファーム
代表取締役 安井 善成

取組事例

環境保護農業の推進

地球環境に配慮した農業活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

《具体的な取組み》

- ・ 保冷設備の省エネ化・LED照明の導入、一部農地での太陽光パネルによる再生可能エネルギーの促進を通じたエネルギー消費削減
- ・ 農作物の搬入については段ボールを使用せず再利用コンテナによる資源の削減
- ・ 環境負荷が少ない農薬の使用、使用量削減を通じた土壌の保護
- ・ 収穫後の田んぼを渡り鳥の休憩スペースに利用することや燕の巣作り推奨
- ・ グローバルGAP認証による環境保護方針の策定



農業を通じた社会課題解決に向けて

多くの社会課題に対して、農業を通じて行える取り組みを実施し、社会課題解決に努めてまいります。

《具体的な取組み》

- ・ 農作地譲受による農作放棄地の削減
- ・ 農業学校のグローバルGAP取得に向けた支援
- ・ 県外から農家を目指す研修生の受入支援
- ・ 遠隔地のIoTによる遠隔化システムなどの省人化
- ・ 男性の育休取得など、柔軟な働き方に対する対応
- ・ スーパーから出る食品廃棄物を使用したリサイクル堆肥の使用



農業を通じた地域貢献

多くの社会課題に対して、農業を通じて行える取り組みを実施し、社会課題解決に努めてまいります。

《具体的な取組み》

- ・ 農業従事者による清掃活動
- ・ 地域の伝統行事への協賛
- ・ こども食堂の運営
- ・ 体験農場を通じた子どもたちへの食育教育
- ・ 地域コミュニティへの積極的な関与



持続可能な開発目標（SDGs）とは

経済・社会・環境の三つの側面のバランスが取れた社会を目指す世界共通の指標として、2015年9月に国連で採択。貧困や飢餓、水や保健、教育、医療、言論の自由やジェンダーなど、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成するという目標になっており、17のゴール（目標）と169項目のターゲット（達成基準）がある。

水田農業の高収益化を推進するブロッコリー大規模経営スマート化実証 (有)安井ファーム（石川県白山市）

背景及び取組概要 <実証面積:12ha> <実証品目:ブロッコリー>

○水田でのブロッコリー栽培では、排水不良により耕起・畝立ての作業適期に限られるとともに、畝成型にはオペレーターの熟練度が要求されるため、

①スマート農機を活用することで、水田での畝成型・定植の高速化、高精度化を目指す。

○ブロッコリーは加工業務用出荷が求められる品目であるが、生育がばらつきやすく、同一ほ場でも十数回に分けて手収穫するため、収穫に要する労力が大きい品目である。省力・低コストな収穫・出荷体系を実証するため、

②収穫診断システムを活用することで収穫時間を削減するとともに、

③収穫機を活用し収量を増加させる。

実証目標

労働時間22%削減、収量30%増加、生産コスト25%削減、収益性35%向上

ロボットトラクタ
・耕起作業を効率化



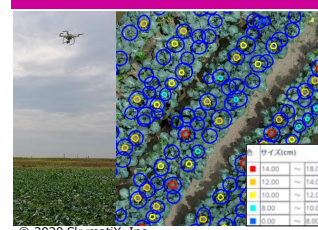
オートトラクタ
+GPS車速連動施肥機
付二畦整形ロータリー
・畝立て作業を効率化
・畝立て精度向上



全自動移植機
・定植作業を効率化



花蕾収穫適期診断
「いろは」
・効率の良い作業計画
に活用し、収穫作業を
効率化



全自動収穫機
・収穫作業を効率化



耕起

畝形成・施肥

定植

生育モニタリング

収穫

【今後の展開】

- ・ 石川県内におけるブロッコリー作付け拡大
- ・ 福島県内における農業復興支援（計画中）

【意見・要望】

- ・日本の農業従事者数は減少し、平均年齢も高齢化
 - 法人経営体への譲渡が進む
 - 集落営農と法人経営体のマネジメント不足や機械投資リスクが課題
- ・市街化により農地減少や中山間地の放棄が進む
 - 農地維持のために基盤整備と放棄地開墾を強化し、農地集積を図るべき
- ・供給過多の米や一部の農作物は供給過多にある
 - 輸出を強化し、長期的には自給率向上に取り組むべき